

自己点検・評価報告書

令和5年度

学校法人野又学園

函館歯科衛生士専門学校

令和5年度 自己点検・評価報告書 目次

I	教育理念・目標	
	1. 教育理念・方針	1
	2. 教育目標・人材育成像	1
	3. 教育の特色	1
II	学校運営	
	1. 経営目標	2
	2. 管理運営	3
III	教育活動	
	1. 教育課程の編成及び実施	5
	2. 資格試験	8
	3. 教職員	9
	4. 在学生の状況	10
IV	学修成果・教育成果	
	1. 就職状況	12
	2. 資格の取得状況	12
V	学生支援	
	1. 在学生への支援	13
	2. 卒業生への支援	14
	3. 中学校・高等学校との連携	15
VI	教育環境	
	1. 施設・設備	16
	2. 実習施設	18
	3. 防災計画	18
VII	学生の受入れ募集	
	1. 入学試験状況	19
	2. 広報・学生募集活動	19
	3. 学生納付金	20
VIII	教育の内部質保証システム	
	1. 各種法令の遵守	21
	2. 個人情報保護	21
	3. 自己評価の実施	21
IX	財務	
	1. 予算・収支計画	22
	2. 会計処理・監査	22
	3. 財務情報の公開	22
X	社会貢献・地域貢献	
	1. 社会貢献・地域貢献	22
	2. 職業教育・職業体験	23
XI	学校評価	
	1. 学校満足度評価	23
	2. 就職先医院調査	25

I 教育理念・目標

【評価の観点】

- ・学校の理念・目標・育成人材像は定められているか
- ・教育目標・育成人材像は、歯科業界のニーズに向けて方向づけられているか
- ・学校における職業教育の特色は明確になっているか
- ・学生・保証人(保護者)に対して教育理念等を明文化し周知しているか

1. 教育理念・方針

3年間の学校生活の中で、建学の精神の浸透を図り、豊かな人間性を基にした専門職に必要な知識・技術を修得させるとともに、自らの目標に向かい、学習意欲や態度を培うことができる専門的職業人の育成を目指している。

これらの実現のために、歯科保健に関わる問題に関し、専門的知識と技術を通して幅広い対象者を援助できる能力を修得する。また、業務の多様化・高度化に対応できる専門性や創造性に優れた歯科衛生士を育成することを教育方針としている。

2. 教育目標・人材育成像

- (1) 基本的な医学知識を身に付け、高齢社会に対応できる能力を養う
- (2) 学問的裏づけによる問題解決能力と、それを応用できる創造性を養う
- (3) 臨地臨床に必要な総合力の向上を目指し、即戦力となる人材を育成する
- (4) コミュニケーションスキルや、ホスピタリティマナーを身に付け、豊かな人間性と社会性を育む
- (5) 歯科医療のプロフェッショナルとして、生涯学ぶ努力を怠らない歯科衛生士

3. 教育の特色

現在の歯科医療は、先進的歯科医療と高齢化に伴う高齢者歯科医療の二極化が進行しており、歯科衛生士はこれまで以上に幅広い知識やスキルが求められるようになった。また、人材不足からより高い実践力の育成が学校に期待されている。

本校教育は、臨床および現場において即戦力となる人材育成を目標とし、学内では2年次のOSCE(客観的臨床能力試験)を軸として授業展開しており、学外は歯科診療室の一般診療、周術期、回復期の病院実習のほか、高齢者施設での実習、口腔保健センターの障がい者実習と、幅広い歯科衛生士業務を学び実践力の向上に努めている。

《現状と課題》

年度末に、本校教育の客観的評価を目的として、過去3年間に卒業生を採用いただいた歯科医院に『本校卒業生』に対する満足度調査を実施した。(詳細はP25に掲載)

結果は、満足・やや満足の『満足群』は全体の87.5%であり、特に札幌の医院では100%、道外では90%と高い評価を得られた。『不満足群』12.5%の理由をみると、退職してしま

ったこと以外では、『要領の悪さ』があり、本校で取組みはしているものの難しい課題となっている。また、評価 10 項目では、問題発見力や新しい知識・能力を身に付けようとするなどの学習スキルが不十分であることが分かった。

学生対象の学校満足度調査では、全項目を総合すると、とても満足・満足の『満足群』は、1 年 94.4%、2 年 87.9%、3 年 94.1%、平均では 92.1% と、昨年度を上回ることができた。（詳細は P23 に記載）

特に前年度、1 年次のクラス運営が困難で退学者も多くなったことから、今年度はいくつかの改善策を講じたが、1 年生の高い満足度からその成果を実感できた。

○ 検証資料

学園訓、事業計画、学則、学生便覧、シラバス、学校満足度調査、授業評価
就職先アンケート

II 学校運営

【評価の観点】

- ・教育方針や教育目的に沿った運営方針が策定されているか
- ・運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか
- ・運営会議（教職員会議・教務会議など）が定期的開催されているか
- ・教職員それぞれの職務分掌が明文化されているか

1. 経営目標

（1）中期経営計画（令和 5 年度～令和 7 年度）

新たな中期経営計画（令和 5～7 年度）のスタートの年であった。本校では、①退学者を減少させる、②学生募集の見直しの 2 点に絞って取り組むことにした。

①前年度に 1 年生で退学者を多く出したクラスの反省から、時間割に敢えて空き時間を設定し、相互学習で学び合い、担任は面談機会とすることで、早期の問題解決につながった。また学級コミュニケーションでは、担任だけではなくゼミ形式を取り入れたことで、人間関係の固定化を防ぎ、良好な人間関係の構築に成果をあげていた。これらの取組みの結果、1 年次の退学者はゼロであった。

②学生募集では社会人の獲得に関し、専門実践教育訓練給付金制度と失業手当との関連などの周知のため、学校HPに専用ページを追加したほか、リーフレットを多方面に配布し、多くの設置場所を設けた。

（2）事業計画

各年の年度末には次年度の学校運営について、『所属長方針』に従って事業計画、予算計画を策定している。

令和5年度の事業計画は、①新カリキュラムの検討、②学生募集、③退学者対策の3点であった。

学生募集と退学者対策は、中期経営計画にある課題について、初年度の取組みを単年度計画としたものだった。学生募集（特に社会人）に関しては、担当者とやり取りが続きながらも入学に至らなかった事例がいくつかあり、残念な結果であった。引き続き高校生同様に社会人向けに注力して取り組む。

新カリキュラムは令和5年度中に教務委員会にて2度の協議を経て、骨子が固まったため、令和6年5月の教務委員会で最終確認した後、理事会で承認を得て申請する予定でいる。

《課題》

中期経営計画・事業計画のなかで、退学者対策は空き時間活用や教科としての取組みで効果を実感しており、担任の精神的負担も軽減され教員の自信にも繋がった。しかし学生募集に関しては工夫を重ね、SNS活用のほか新規方策の実施など幅広く展開しているものの、残念ながら成果はみられない。歯科衛生士という職業を選択してもらうには、職業の魅力発信が必要であり、学校だけでなく、業界全体での対策を講じなければならない。

次年度は、函館歯科医師会、北海道歯科衛生士会函館支部とで課題を共有し、連携を図っていく。

2. 管理運営

(1) 就業規則

就業規則は、『学校法人野又学園就業規則管理規程』の各校就業規則作成基準をもとに作成・運用しており、学園ネットワーク上でいつでも閲覧、プリントが可能である。また、改定の際には速やかに周知すると共に会議開催時には教職員に重ねて情報共有に努めている。

(2) 人事労務管理

教職員の勤務状況等はPCのタイムカード機能、出張、休暇届などはワークフローにより管理している。本校は行事等で年間10日間程度の休日出勤を要するが、広報関係は担当制にして出勤人数を削減するなどしており、出勤分は振替休日に対応している。

年次有給休暇は、最低10日間の消化を目標としているが、全員が目標を達成できた。

(3) コンプライアンス

- ① 歯科衛生士学校養成所指定規則に従い、承認申請事項、報告事項共に遵守しているが、令和5年度は例年の実習施設の追加も無く、承認申請を行わなかった。

- ② 本校は、職業実践専門課程、専門実践教育訓練指定講座、修学支援新制度の認定校であることから、各法令・規定を遵守しており、特に情報の公開は年度の早いうちにホームページに掲載するよう努力している。
- ③ 専門実践教育訓練指定講座に関しては、指定要件が厳しく、定員充足率や卒業生数と国家試験合格率、就職率など十分な注意が必要になっている。令和5年度から3年間の再指定を受けることができているが、令和7年度中に更新申請が必要なことから、次回の更新を見据えて注意深く数字を見ていかなければならない。

(4) 情報公開・情報システム

- ① 例年、5月の理事会終了後に学校ホームページの情報を更新している。特に修学支援制度や職業実践専門課程の要件にもあるため速やかな公開が必須だが、自己点検に係る学校関係者評価については、委員会開催後に遅れて更新する。
- ② 令和5年度のSNSでの情報発信は、ホームページ35回、インスタグラム34回LINE 20回行った。
- ③ 学園ネットワークにより、校内の業務管理、業務の効率化の他、学園関連校との情報の共有化も図られている。
- ④ 学校パンフレットは、毎年更新する情報は本体とは別に別冊にして、前年度の実績情報を掲載している。

(5) 運営協議会

開催日：令和5年12月8日(金)15:30

学校管理運営上の課題や重要事項の解決策等について協議しており、メンバーは法人から理事長、事務局長が、学校からは校長、教務主任ほか専任教員が委員として出席している。

令和5年度は、事業計画であった学生募集と退学者対策の進捗についての報告の後、いじめ対策と学生募集の方向性について協議した。いじめ対策については、学則変更を計画する他、危機管理委員会でも各校で実施する定期調査の質問項目を作成中とのことで、本校でも活用していく。

(6) 運営委員会

開催日：令和6年3月13日(水)19:00 於：函館歯科医師会館

函館歯科医師会と野又学園の法人間で、函館歯科衛生士専門学校運営委員会を開催し学校運営に関して広く協議・連携が行われている。メンバーは函館歯科医師会長、副会長、専務理事の三役のほか、学校担当理事と事務局である。野又学園は理事長、校長、教務主任が出席している。

令和5年度は例年の報告事項と、入学生の減少から歯科業界としての学生募集活動について、学校からの提案・協力依頼と、函館歯科医師会の年間イベントへの参加の可否について協議した。

《現状と課題》

令和5年度は新任教員1名が加わったことと、専任教員の担当教科と業務をローテーションさせたため、当初は多少の戸惑いがあったものの、協力して支障なく終えることが出来た。また会議の開催を削減したことで、教員の授業準備等に時間を当てることができたことも功を奏した。

運営委員会にて本校の入学生が激減している現状と、学生募集の困難さについて報告・協議したが、歯科業界全体で生徒獲得のためにどのようなアピールができるのか今後も協議を重ねなければならない。

○ 検証資料

就業規則、就業規則管理規程、個人情報管理規程、公益通報者保護規程
変更承認申請書、5条報告書、
教職員出勤簿、休暇取扱い要領、運営委員会規程、運営協議会規程

Ⅲ 教育活動

【評価の観点】

- ・カリキュラム編成に関して、企業側との連携・協議する組織があり機能しているか
- ・適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか
- ・学業成績評価・単位認定に関して、基準が明確であり事前に学生に示されているか
- ・資格取得等に関する指導体制はあるか

1. 教育課程の編成及び実施

教務委員会開催

1) 令和5年6月29日(木)19:30 於：函館歯科衛生士専門学校

- ・OSCE実施と実習指導者会議への協力依頼について
- ・就職支援活動について

求人票の受付時期の変更／就職説明会開催／離職調査の結果

- ・カリキュラム改編の件

2) 令和5年11月28日(火)19:30 於：函館歯科衛生士専門学校

- ・国試対策状況・就職状況の報告
- ・新カリキュラム案について

講師の選定／シラバスイメージ

(1) 教育課程の編成

- ① 現在は、国家試験出題基準の改定に対応すべく平成 30 年度に改編したカリキュラムだが、臨地臨床実習の時数にたいし、校内での学習時間が不足している状況になっている。これは歯科衛生士の業務の拡大にともない、知識の定着とスキルの向上を図るためには、校内の学習時間を増やす必要性を実感しているからであり、令和 7 年度入学生から新カリキュラムを適応させるよう準備している。
- ② 教務委員会では教育課程に関わる事項をはじめ、授業、実習、就職等について幅広く協議し連携を図っている。
令和 5 年度はカリキュラム改編の事項を中心に、就職や国家試験等広く協議した。

《課題》

令和 7 年度入学生のカリキュラム改正についての協議を開始してから 2 年目となった。臨床実習を 45H・1 単位から、30H・1 単位と変更する件、校内学習・演習に当てる件について了承を得られてからは、新しい教科の講師選定へと協議が続いた。
次年度は変更承認申請を予定しており最終段階となるため、詳細の確定と、資料作成をすすめていく。

(2) 教育指導方法

- ① 本校の授業評価制度は、各教科担当が時間内に適宜実施する評価と、前・後期終了時に学校が実施する評価とがある。さらに年度末に実施する学校満足度調査にも講義・演習全般の評価項目があるなど、授業評価を重要視している。
特に学期末に学校が実施する授業評価では、学生にとって分かりやすい授業の特徴をまとめ、当該学期を担当した教員・講師に配布している。
歯科では PC 使用、電子黒板により画像・映像等視聴覚を活用することでイメージしやすく分かりやすいが、スライド枚数が多くなり進行が早くなりがちのため、その点を注意喚起している。
- ② 専任教員には授業公開を義務付けており、相互に授業参観し評価することで適正な教授方法を共有し学校全体の教育力向上に努めている。令和 5 年度は一人 1 回の講義について公開授業とし、終了後は相互評価を行った。分かりやすい授業の特徴を捉えることで、専任教員全体の教授力向上に努めている。

《現状と課題》

令和 5 年度为国家試験の出題数は、全 220 問のうち専任教員の教科が 43%、専任が関わる教科も含めると 56%を占めていた。したがって、専任教員の授業が分かりやすくなければ国家試験の合格率に影響するものと考えており、その責任もある。今後も学生に分かりやすい授業ができるよう学校全体で努力するとともに、国家試験合格率 100%を毎年達成できるよう目指す。

(3) 教育課程の実施

- ① 令和5年度は各学年ともに計画通りに教育課程を実施できた。ただし3年生の後期に行っていた患者誘致実習のみ、感染予防策ではなく町内会での実習や資格検定試験、学校行事等が重なってしまい、学生負担を考慮し校内で相互実習に変更した。
- ② 秋口から国試受験間近にかけて、コロナやインフルエンザが猛威を振るっていたが、本校は学級閉鎖することもなく最小限の影響に留まった。
- ③ 校外実習は函館歯科医師会をはじめ、地域歯科医療関係施設や高齢者施設のご協力のもと法令時間数を確保しているが、令和5年度は一部の慢性期病棟と高齢者施設の実習が不可となったが、実習先の変更によって全ての時数を臨地・臨床で学ぶことができた。

(4) 成績・評価

- ① シラバスには担当教員の評価について記載があり、オムニバス形式の教科では講師ごとの点数配分まで正確に記載して学生に事前に提示・説明している。また実技試験で評価する場合は、評価の観点を事前に提示しており、採点は明確で客観的かつ公平に行っている。
- ② 本試験終了後、再試験後に成績会議を開催しており、公正に単位認定し進級・卒業判定が行われている。
- ③ 学外実習は、実習指導者による評価制を取入れており、実習終了後には学生にフィードバックして次クールの課題として専任教員が指導している。なお、学外実習の成績は2年次はOSCE30%、臨床指導者評価70%の合計点としており、3年次は臨床指導者評価100%としている。令和5年度は再実習となった学生はいなかった。
- ④ 現在、学修評価は、優(80点以上)、良(79~65点)、可(64~60点)、及び不可(60点未満)とし可以上を合格としているが、合格を10点毎の4段階に変更したく、令和6年度の学則から変更する。

《現状と課題》

コロナ以降、追試験の受験が増加している。本校では試験日程発表時に、再試験の日程も併せて学生に提示している。そのため再試験までの間に追試験を実施する必要があるが、教科が多くなると講師への連絡調整等のほか、試験時間の確保が困難になる。次年度からは講師に作問依頼する際に、追・再試分として2種の問題を同時に貰えるようにすることで、問題解決を図りたい。

本校では平均点が70点の難易度で試験の作問を依頼しているが、その年度によってクラスの学力も異なってくるため、なかには90点台になる試験もあり、講師個別に改善をお願いしてきた。令和5年度をみると平均点が揃ってきており成果を感じた。今後も特に国家試験の出題科目では難易度を必要以上に下げないよう注視していく。

2. 資格試験

(1) 歯科衛生士国家試験

年 度	本校合格率 (人数)	全国合格率
R 5	96.8 % (30/31)	92.4 %
R 4	94.6 % (35/37)	93.0 %
R 3	100 % (32/32)	95.6 %
R 2	100 % (31/31)	93.0 %
R 元	97.1 % (34/35)	94.3 %

国家試験対策は総合講義(120時間,4単位)として各教科担当教員・講師による対策講義を行うほか、模擬試験は合計で10回実施し、その都度会議で状況把握に努めている。なお成績低迷学生には個別に担当制で学習指導にあたっている。

《現状と課題》

2年連続して不合格者を出したのは初めてだった。前年度の結果からいかに早期からコツコツと努力する姿勢を引き出せるかが重要だと考え、その新たな対策も実施したが、結局対象となる学生には響かない。また、国試終了後のアンケートでも対象とする学生の学習開始時期は学校想定から2か月も遅く、当然の結果と言える。

毎年この『早期に開始しなければ間に合わない』学生は、なぜ始めないのかが問題であり、様々な対策を試みてはいるが解決されなかった。このことについて、時間をかけて次年度の方向性を協議し、個別サポート体制や合格確率の個別提示などは継続するが、学習させる『仕組みの構築』のため、例年の国試対策授業の時間割そのものを大胆に変更することにした。また業者の有料サポートの導入に関しても、学校か、または個人なのかを状況をみながら検討していく。

不合格者と、前年度の不合格者合わせて2名に関して、再受験の意思を確認できたらこちらも早期に支援していくつもりでいる。

(2) 検定・認定試験

年 度	歯科医療事務検定3級		サービス接遇マナー検定	
	合格率	全国合格率	本校合格率	全国合格率
R 5	100 %	95.6 %		
R 4	100 %	93.3 %		
R 3	100 %	81.9 %	93.2 %	79.1 %
R 2	96.9 %	73.2 %	82.1 %	64.5 %
R 元	100 %	79.5 %	100 %	81.7 %

3年次に歯科医療事務の授業を行い、歯科医療事務検定3級の受験へと繋げており、令和5年度は100%の合格率だった。R3年度以前は難易度の高い検定試験

を受験してきたが、3年後期という多忙な時期でもあるため、現在は難易度を下げた検定試験に変更している。

3. 教職員

(1) 教職員の状況

・専任教員 7名 非常勤講師 58名 合計 65名
 ・専任職員 1名 兼任(務)職員 1名

専任教員は指定基準資格を満たしており、教務主任含め6名が在籍している。全衛協の専任教員講習の認定制度は、今年度1名参加できたため6名中4名となった。来年度にも1名が参加を予定しており、コロナ禍で遅延していたがようやく揃うことになる。

現行カリキュラムの改編時に、歯科衛生士専門科目3教科を2教科に統合し、それぞれ3名の教員で担当することにした。この2教科合わせて17単位、680時間あり国家試験出題数も多い。これまで担当者を固定していたが国試対策には不都合も多く、また教示法に多様性を持たせたいことから、令和4年度から担当教科のローテーションを進めてきたが、来年度は新体制でスタートできる。

(2) 教員研修

令和5年度研修受講実績（専任教員6名分）

1. 全国歯科衛生士教育協議会	
専任教員研修会Ⅲ	千葉
専任教員研修会Ⅴ	千葉、渡邊
2. 北海道歯科衛生士養成機関連絡協議会	
専任教員研修会『対応が難しい学生の特徴と指導法』	渡邊
同上（WEB）	永橋、三浦、千葉、渡邊、水口
3. 日本歯科衛生士会	
災害歯科保健歯科衛生士認定更新研修（WEB）	永橋
4. 北海道歯科衛生士会	
第16回学術大会（WEB）	渡邊
食・口腔機能改善専門職養成研修会（WEB）	渡邊
食・口腔機能改善専門職種養成研修会『ワークショップ・模擬地域ケア会議』	渡邊、永橋、三浦、千葉、渡邊、水口
5. 北海道歯科衛生士会 函館支部	
地域ケア会議の概要と歯科専門職の関わり方	渡邊、永橋、三浦、千葉、渡邊、水口
6. 歯科医師会（函館・北海道）	
臨床研究発表会（函館歯科医師会）	千葉、渡邊

7. 関連職種団体	
口腔に関わる在宅療養支援サポート研修（在宅歯科医療連携室）	三浦
急変時対応研修会（函館市介護医療連携支援センター）	渡邊、永橋、水口
口から食べられる理想に向かって（北海道医療大同窓会コラボ）研修会	渡邊
8. 広報・学生募集関連	
入試環境の変化と高校生の進路研究（進研アド）WEB	永橋、三浦、水口
今、求められる中退防止策とは（進研アド）WEB	渡邊、永橋、三浦、千葉、渡邊、水口
近畿大学と考える認知からファンにする SNS 活用法（ライフマップ）WEB	渡邊
入学者減少と学力低下が専門学校教育に及ぼす影響 WEB	渡邊
9. その他	
画像で診る要介護高齢者の口腔疾患（雪印ビジュアル）WEB	三浦
急性期、慢性期、終末期患者の口腔軟膜疾患とその対応（雪印ビジュアル）	三浦
誤嚥性肺炎に対する包括的アプローチ（リフレケア）	渡邊
歯科衛生士のための歯周基本治療（GC友の会）	三浦
子どもたちの健やかや成長を促す家庭教育（函館市教育振興フォーラム）	渡邊、永橋、三浦、水口
超音波スケーリングで実現する歯周病治療のパラダイムシフト（卒後研修会）	千葉、渡邊
教育カウンセラー養成講座（NPO 日本教育カウンセラー協会）	永橋、渡邊、水口
優良歯科医院が考える欲しい新卒 DH の人物像（クオキャリア）	渡邊
労働法の教え方セミナー（厚生労働省委託事業事務局）	渡邊
変化する社会に求められる人材の傾向と分析（ベネッセ COP）	渡邊
今どきの学生との良好な人間関係の築き方（北専各連函館支部）	永橋、三浦、千葉、渡邊

《現状と課題》

教員 1 名が専任教員講習 I～V の認定講習を修了した。次年度はもう 1 名が修了予定であり、新任教員以外はようやく全員が揃うことになる。

上記の通り本校教員は年間 8～13 回の多方面且つ多数の研修に参加し、忙しい中でも各自が自己研鑽に励んでおり、学校の教育力の向上につながっている。

4. 在学生の状況

(1) 学生数・定員充足率（40 名定員）

※5月1日現在

年度	1年	2年	3年	合計（充足率）
R 5年度	26名	19名	31名	76名 (63.3%)
R 4年度	24名	35名	37名	96名 (80.0%)
R 3年度	39名	39名	32名	110名 (91.7%)
R 2年度	40名	34名	34名	108名 (90.0%)
R 元年度	34名	37名	36名	107名 (89.1%)
H30年度	38名	39名	34名	111名 (92.5%)

(2) 年間退学者数・率

年度	1年	2年	3年	合計 (退学率%)
R 5年度	1名	3名	0名	4名 (5.2%)
R 4年度	6名	3名	0名	9名 (9.3%)
R 3年度	4名	2名	0名	6名 (5.4%)
R 2年度	1名	4名	1名	6名 (5.5%)
R 元年度	0名	4名	0名	4名 (3.7%)

(3) 修業年限内卒業率

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
入学年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3
入学時学生数	39	34	42	39	40	38	34	40	39
卒業時学生数	35	25	38	33	33	31	30	37	31
修業年限内卒業率 %	89.7	73.5	90.4	84.6	82.5	81.5	88.2	92.5	79.5

(4) 学校行事

- 4月 入学式
新入生歓迎会
- 5月 春のレクリエーション (1.2年生合同)
- 6月 スポーツ交流会 (1.2年生合同)
- 10月 遠足、学校祭
- 2月 臨床実習決意式
- 3月 歓送会、卒業式

《現状と課題》

新入生の退学者対策を幾つか計画し実施したところ、1年生では入学式のみで退学した1名以外にはいなかった。クラスづくりを担当任せにしない施策は、学校内での人間関係の広がりや助け合う風土の醸成に成果があった。

本校の各学年における担任の役割は、3年は国家試験に取り組む姿勢、2年はOSCE含めた臨床実習達成の支援、そして1年は良好な人間関係の構築であり、クラス替えない学校では1年次のクラス運営が重要であるため、担任の精神的負担も大きい。今年度の退学者対策は、1年担任の負担軽減にも役立ったとも言える。

○ 検証資料

学生便覧、シラバス、年間行事予定表、出席簿、休・退学生台帳、授業評価表
函館歯科衛生士専門学校教務委員会規程、臨地・臨床実習計画表、実習評価表
成績会議資料、模擬試験計画表、函館私学研究紀要

IV 学修成果・教育成果

【評価の観点】

- ・ 歯科衛生士国家試験の合格率は全国平均と比較してどうか
- ・ 資格取得率の向上が図られているか
- ・ 就職指導・支援は十分であったか

1. 就職状況（卒業生 31名）

年 度	卒業生数	函館市内	渡島・檜山	道内	道外	合 計
R 5年度	31名	13名	4名	7名	6名	30名
R 4年度	37名	21名	1名	2名	8名	33名
R 3年度	32名	18名	2名	6名	3名	29名
R 2年度	31名	13名	4名	3名	11名	31名
R 元年度	35名	16名	5名	3名	8名	32名

2. 資格の取得状況

III 教育活動 2. 資格試験に記載

《現状と課題》

今年度の3年生は全員が就職を希望し、国家試験不合格1名以外の30名は歯科衛生士として就職した。なお、不合格の1名も、歯科助手として採用され次年度の再受験を支援してくださるとのことで、学校は歯科医院や本人と連絡を取りながら秋頃からサポートする予定でいる。

今年度の学生をみると、就職活動を早めて早期に内定をもらおうと国家試験の学習に集中できるが、求人の様子を見ながらという学生は、重要な時期が重なることで、模擬試験に苦戦していたことから、早期の内定獲得を促す必要性を感じた。

○ 検証資料

求人一覧表、就職一覧表、就職説明会資料、就職支援対策のフローチャート

V 学生支援

【評価の観点】

- ・ 就職に関する支援体制が整備されているか
- ・ 学生相談に関する体制は整備されているか
- ・ 奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

1. 在学生への支援

(1) 就職・アルバイト

① 就職支援ガイダンスの実施（3年次5回）

- ・労働基準法について
- ・求人票の見方・確認ポイント
- ・求人票の掲示から採用までの流れ
- ・履歴書の書き方
- ・税金に関する講演（外部講師による）

② 函館歯科医師会対象の就職説明会は、1医院15分間のプレゼン形式として日曜日に開催しており、3年生全員参加としている。

令和5年度の参加医院は8件と前年度から大きく減少した。

③ 函館歯科医師会員の医院から学生アルバイトの募集があった際には、随時学生に開示し募集している。

令和5年度の受付件数20件・29名にたいし、10件・10名を斡旋したが、近年は希望者が出ずに募集票を長期間掲示することが増えている。

(2) 学生相談

全学年ともに春季・秋季に担任との個人面談を実施し、問題の早期発見・対応に努めている。令和5年度は退学者対策の一つとして時間割に空き時間を設定したことで、教員・学生ともに時間的負担が解消され、有効活用ができていた。

(3) 経済的支援

① 奨学金の給付（令和5年度入学生）

種 類	A特待(20万円)	B特待(10万円)	特別推(20万円)	キャリアD(5万円)	合 計
対象人数	2名	4名	2名	0名	8名 (120万円)

② 修学支援新制度利用者および日本学生支援機構の奨学金対象者 (R6.3.30)

制度 \ 学年		1年(26名)	2年(15名)	3年(31名)	小計	合 計
修学支援新制度 (減免)	I	2名	4名	9名	15名	24名
	II	4名	0名	2名	6名	
	III	1名	1名	1名	3名	
学生支援機構(貸与型)		12名	10名	14名	38名	36名

③ 函館歯科医師会奨学金制度は、年度途中で対象者を選出し、クラスの10%程度の学生に3万円を給付している。

令和5年度は、3学年合わせて8名に奨学金(24万円)が給付された。

《現状と課題》

学生アルバイトの募集が増加しており、令和5年度では20件あった。しかし学生数が減少していることと、歯科医院では勤務時間が短いため収入が少なくなり、学生にとってはデメリットがある。また賃金の高騰から歯科医院とその他職種の時給の差異は殆どなくなっているため、歯科医療の現場で学べるメリットを越えないようだ。

(4) 健康管理

- ① 法令に従い健康診断、身体検査は4～5月に実施している。
- ② B型肝炎感染予防対策として、1年次にHBs抗原抗体検査を行い、陰性ではワクチン接種によりHBs抗体を確認するとともに、はしか・ムンプス等4種の抗体検査を行ってから臨床実習に入るようにしている。
- ③ 新型コロナウイルスが5類に引き下げられた後も、感染対策は継続しており、校内の至る所に消毒剤を設置して手指消毒の励行や、教室にはCo2センサーを設置し、換気するなど医療職種として常識的な対策を行っている。

(5) 保護者との連携

- ① 近年ではメンタル不調の学生が増加しており、保護者との連携機会も増加している。また、成績不振学生や国家試験に向けては、家庭での学習支援の重要性から、相互サポートへの理解を得られるよう心がけている。
- ② 体調不良により早退する場合には、担任から保護者に病状や状況などについて連絡してから帰宅させるようにしている。

《現状と課題》

保護者との関係性に関しては、担任が小まめに連絡を入れることで、問題なく連携ができています。特に模擬試験結果が振るわない学生には、直接保護者に連絡し状況を伝えなければ、最終的に学校不信になり兼ねない。

奨学金の扱いでは説明会を開催し、授業料納入等についても、事務職員が丁寧に説明することで理解を得られている。

2. 卒業生への支援

(1) 卒後研修会開催

令和5年9月10日(日) 9:30～12:30 参加22名

加 瀬 久美子 先生 『超音波スケールで実現する！歯周病治療のパラダイムシフト』

マネキン実習室を活用した研修会だった。

周知方法は学校HPへの掲載の他、函館歯科医師会の発送物に案内を同封、実習医院へ持参して歯科衛生士に直接渡すなどしている。また卒後2～3年の卒業生には、担任がLINEにて連絡しているが、想定よりも参加者が少なく、研修テーマの設定に苦慮している。

(2) 就職支援

令和5年度の中途採用の求人受付は12件あり、そのうち本校で斡旋できたのは2件のみであった。北海道歯科衛生士会函館支部との連携により、会員に一斉メールにて求人情報を発信しているが、以前までのように卒業生が学校に就職相談に来ることは少なく、求人サイトや口コミ、雑誌等の利用が主流になっている。

(3) 学校教材の貸出し

学校図書や歯科保健の指導媒体・器材等の貸出しは要望があるごとに随時行っており、卒業後の学びや勤務先での診療業務に対して協力しているが、令和5年度は依頼がなかった。

図書に関しては、現在新しい図書や雑誌が充実してきており、卒業生にも好評である。

《現状と課題》

函館歯科医師会管内の新卒求人数に対応できていないことから、中途採用の求人が増加しているが、病院や福祉施設からの求人もあり、更に斡旋は困難になっている。地元就職者の割合は年度によって異なるが、減少傾向にあるうえに学生数が激減しているため、今後ますます需給バランスの偏りが予想される。

学校には新卒採用、中途採用、アルバイト求人が集まるが、担当者（教務主任）一人の業務のため負担を考慮しなければならない。

3. 中学校・高等学校との連携

(1) 中学校

・次世代人材職業体験推進事業

月 日	学 校 名	人 数	時 間
4/26	新ひだか町立静内第三中学	5人	9:00～12:00(3h)
8/25	鹿部町立鹿部中学	5人	9:30～11:30(2h)
10/20	函館市立桔梗中学	14人	13:30～16:30(3h)
11/ 9	函館市立戸倉中学	7人	9:00～14:00(4h)
合 計	4校(昨年度比+1校)	35人(+4人)	12.0時間(+6.0h)

(2) 高等学校

① 学園姉妹校である函館大学付属柏稜高等学校と連携し、キャリアデザインプログラムに講師を派遣するほか、職業体験として生徒の受け入れをしている。

② 高等学校の職業説明会への参加のほか、高等学校独自のガンダンスには依頼があれば必ず参加している。

《現状と課題》

次世代人材職業体験事業による中学校の来校は、前年度比1校プラスだったが、コロナ前に比べ依然として少ない。本校としても中学生への職業PRでもあるため、回復を期待している。

その他、本校から小・中学校に歯科保健指導のため訪問授業を実施した。

- ・久根別小学校 R5年10月19日(木)3年生対象
- ・亀田中学校 R5年11月21日(火)1年生対象

口腔保健管理の授業として3年振りに実施することができた。小学校を本校1年生が担当し、中学校は3年生が担当している。本校学生にとっても貴重な学びの機会だが、学校としては歯科衛生士の職業PRの機会でもあり、今後も継続実施していきたい。

○ 検証資料

就職希望調査、求人票一覧、就職支援のフローチャート、アルバイト募集一覧
入学試験要項、函館歯科医師会奨学金支給規程実施要綱、入学試験判定資料
職業説明会実施記録、口腔保健教育授業実施記録、卒後研修会開催記録

VI 教育環境

【評価の観点】

- ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- ・施設・設備の点検、補修・修繕等は適宜行っているか
- ・学外の実習施設等は学生に対し十分確保されているか
- ・災害時防災マニュアルに従って避難訓練を実施しているか

1. 施設・設備

(1) 普通教室

教室には電子黒板、スクリーンが設置されており、PCやタブレットでの授業が可能だが、令和4年度からWi-Fi環境が整い、授業中のスマホ検索や国試ネットアプリを活用して出題もできるようになった。

年度途中に、教室の引き戸の不具合が数カ所あり、施錠ができなくなったため、建具業者に依頼して修繕を行った。

(2) 実習教室

- ① 基礎実習室では診療台をU字に14台配置し、ロールプレイを行う際に、教員の巡視・指導の導線が良い。また、学生が自分たちで器材の消毒・滅菌を行いやすいように、前方に滅菌器や超音波洗浄機などの機材を揃えて配置している。
- ② 実験室は必要器材の準備から後始末までを学生ができるように備品が整理・収納されているが、マネキン実習室が整備されてから使用頻度は減少している。

移動式ホワイトボードのキャスター不具合から移動できない状態であったが、ネットで代替器材を購入して使用できるようにした。

- ③ マネキン実習室には、歯科診療台の仕様を机にしたものが 40 台設置されている。ライトやシリンジ、切削エンジン等も備わり、『人』を対象とする演習の前に重要な基礎実習で使用しているが、カメラと机上モニターがあることからそれ以外の実写を要する授業においても効果的であり、多目的に使用している。南向きに配置された教室のため日差しが強く、マネキン等の劣化を防ぐため授業以外はカーテンを閉めている。
- ④ X線教室は、撮影室 3 室と暗室が 2 室あり、壁、ドア、ガラスに放射線防護装置が施されており、安全に授業ができる設備となっているほか、デジタル撮影装置も備わっている。
- ⑤ PC実習室はパソコン機 42 台を設置しており、情報処理・統計の授業のほか、口腔保健管理での患者データの入力・管理や、課題研究のデータ管理・分析とプレゼン用スライド作成、臨地臨床実習の時間計算など広く活用している。函館看護専門学校との共用である。

(3) その他

- ① 標本室は学習室の機能を兼ねており、器材や模型が展示されているほか、自己学習用の机・いすも備わっており、学生は自由に使用できるようになっている。
- ② 面談室は 1 F に 3 室あり、個別、または 5 人程度の収容面積がある。学生面談に使用するため 2 F 教室と離れている環境は適している。
- ③ 医務室には、2 床のベッド及び寝具が備えられ、一時的な休養に使用する。
- ④ 1 F ラウンジでは、シダックスによる食堂運営がされており、学生、教職員が使用するほか、国家試験対策時には、担当学生への指導に使用している。
2 F ラウンジⅡにはカウンター席、ソファ席、テーブル席もあり、休憩や食事のほかにも個人学習やグループ学習、アクティブラーニングなど多目的に使用できる。学校祭では模擬店や食事場所として活用している。
- ⑤ 新校舎にはエレベーター、多目的トイレを設置しており、学生や講師が車いすでも対応できる。

各実習教室の放課後使用状況(在校生数は 5 月 1 日現在)

各教室 年度	マネキン室	基礎実習室	実験室	PC実習室	合計(1人平均)
R 5 (73 名)	1 3 0	1 1 0	2 9	1 1 5	3 8 4 (5.3 回)
R 4 (96 名)	1 7 8	2 0 5	1 5 2	3 0	5 6 5 (5.9 回)
R 3 (110 名)	2 2 3	1 4 8	1 8 4	4 1 5	9 7 0 (8.8 回)
R 2 (108 名)	2 9 5	9 6	2 3 0	1 0 5	7 2 6 (6.7 回)

《現状と課題》

学校満足度調査のなかで、教室の机・椅子に関する不満があがっていた。ビジネスアカデミー専門学校の閉校時に譲り受けたものだが、机の面積が狭く使いづらいことと、椅子の老朽化から衣服の膝裏の損耗があるとのこと。椅子に関しては保管物品の中にある物と交換しながら使用するが、机の新規購入は考えていない。

放課後の実習教室使用状況では、PC実習室以外の教室は、2年次のOSCE対策で多く使用することから、令和5年度の2年生が少なかったため使用数も減少している。

放課後に実習教室を開放することで器材の扱い等、問題が生じないか心配されたが、これまでトラブルなく利用されている。

2. 実習施設

令和5年度現在登録施設

	歯科医院	総合病院	病院	保健センター	施設	幼保園	計
R5年度	100	5	7	1	13	13	139
増減件数	-2	-	-	-	-	-	-2
備考	削除3 追加1	口腔外科	病棟	障がい者	高齢者		

令和5年度は、実習施設の追加申請を行わなかったため、前年度と変更はない。学生数が減少していることもあって、実習施設数は十分に確保されている。しかし、指導歯科衛生士の離職などで、施設要件を満たさないこともあるため、今後も新規開業の医院には施設登録の依頼をしていく。

3. 防災計画

・防災訓練実施日 令和5年6月21日（水）12：15～

函館看護専門学校と合同で訓練している。校舎に階段が3か所にあることで、2階からの歯科学生と3階からの看護学生がスムーズに避難できているが、毎年発生元が同じため、他の避難経路も準備しておく必要があるのではないか。

○ 検証資料

歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導要領、臨床実習施設の概況
歯科衛生士養成所変更承認申請書、実習教室の使用状況一覧

VII 学生の受入れ募集

【評価の観点】

- ・学生募集活動は適正に行われているか

- ・学校説明会・進学相談会等による情報提供を行っているか
- ・学納金等は妥当なものとなっているか

1. 入学試験状況

年度	志願者数			受験者数	合格者数	入学者数
	特待	推薦	一般・社会			
R 5年度	13名	5名	4名	22名	22名	21名
R 4年度	22名	2名	4名	28名	28名	27名
R 3年度	16名	7名	3名	25名	25名	24名
R 2年度	23名	12名	5名	40名	40名	39名
R 元年度	28名	10名	5名	43名	40名	40名

《課題》

学生の満足度を向上させることが、入学生を増やす一因になればとの思いで様々な取り組みをしてきた。その結果、学生の満足度、卒業生の満足度、就職先医院の満足度のいずれも十分な評価を得たことは、これまで内部環境の改善を十分に行ってきた実績だと言える。しかしそれ故に今後は果たしてどのように学生募集を展開するものかが難しい問題である。なお、社会人にもまだ可能性があるため、注力していきたいと考えており、次年度以降はさらに厚く取り組んでいく。

2. 広報・学生募集活動

(1) 活動実績

活動内容	R 5	R 4	R 3	R 2
高校訪問	40校・101回	63校・152回	65校・179回	49校・108回
校内説明・ガイダンス	10校・13校	11校・9校	9校・7校	3校・1校
業者相談会（面談者数）	8回（35人）	14回（47人）	20回（111人）	16回（77人）
オーキャン（参加者数）	5回（49人）	6回（65人）	7回（83人）	5回（73人）
放課後送迎付き見学会	10校（36人）	8校（23人）		

(2) ホームページ等SNSの活用

学校ホームページでは職業実践専門課程の認定要件、修学支援新制度の機関要件の両方を満たすための情報公開と、その更新について確実にしている。

令和5年度は、HPからの情報発信35回、インスタグラム34回、LINE20回更新した。また、HP上に社会人専用ページとフォームをつくり、社会人に専門実践教

育訓練給付金制度や雇用保険の制度活用など様々な支援が分かりやすくなるようにした。

《課題》

令和4年4月に弘前医療福祉大学短期大学部『口腔衛生学科』が開設された影響で、本校がターゲットとしていた津軽、五所川原方面の反応が無くなってしまい、非常に困難な状況になった。しかし函館市内、渡島・桧山の募集活動だけでは定員の半分程度にしかならず、今後の募集エリア設定の判断が難しくなっている。

3. 学生納付金

(1) 学校納付金

入学金	200,000円
授業料	550,000円(年間)
実験実習費	190,000円(年間)

(2) 業者への納入金(R5年度)

	教科書	実習衣	実習器材	国家試験旅費
1年	73,000円	13,000円	61,000円	
2年	60,000円			
3年	12,000円			25,000円

教本、白衣等、器材に関しては入学試験要項に記載があり、学生は入学時または進級時に業者から直接購入している。進級時の購入に関しては、事前に保護者宛文書によって内訳金額を提示している。

なお、取扱い業者は毎年相見積りにて採択しており、年度によって異なっているが金額は大体同じくらいになっている。

《現状と課題》

器材等はできるだけ抑える工夫をしており、業者への支払いが滞った事例はなく安堵している。コロナ以前に実施していた研修旅行は、中止から3年経過した時点で今後の実施を取りやめにした。

学納金に関しては、令和7年度入学生から値上げが理事会にて承認されており、次年度に変更申請をおこなう予定である。学生負担は年間で60,000円増となるが、道内の私立の養成校のなかでは中間に位置している。

○ 検証資料

令和5年度入試広報報告、入学試験要項(授業料、実験実習費)諸費用内訳

VII 教育の内部質保証システム

【評価の観点】

- ・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか
- ・個人情報の保護に関する対策を実施しているか
- ・自己点検評価が実施され、問題点の改善に努めている

1. 各種法令の遵守

歯科衛生士学校養成所指定規則に従い、定期報告、申請、届出について必要な事項を掌握し適切に対応しており、法令遵守に努めている。令和5年度は変更申請をおこなわなかった。また、職業実践専門課程の認定要件である情報公開に加えて修学支援新制度においても対象校として様々な学校情報を公開する義務があり、合わせて更新している。

2. 個人情報の保護

『野又学園個人情報管理規程』、『学校法人野又学園個人情報保護方針』により、学校が保有する個人情報について、厳重に扱っている。令和5年度も、『個人情報の取扱いに関する同意書』を入学時に提出させている。

また、臨地臨床実習に際しても、病院、医院、施設にたいし、同様に同意書を提出している。

3. 自己評価の実施

年度末に教員全員による自己点検・自己評価を実施し、学校の実態を把握し、問題点を見つけ、早期に改善するよう努めている。また、結果については野又学園教育向上推進委員会に提出し、理事会の承認の後に学校関係者評価委員会の意見をつけてホームページにて公開している。

令和5年度は、3月27日に7名にて実施した。

《課題》

臨地臨床実習の指導医院において、受け入れの際に誤解が生じないようある程度の学生資料の提供を求められる場面があるが、本人と保護者の意向に沿うように努めている。

○ 検証資料

個人情報管理規程、個人情報保護に関する同意書、学校評価委員会規程

Ⅸ 財務状況

【評価の観点】

- ・予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか

- ・適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか
- ・財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか

1. 予算・収支計画

毎年度の事業計画とともに予算計画を策定している。令和5年度は学生数の減少から授業料収入の大幅な減額を想定した収支計画になった。せめて退学者を減少させることと、教職員は出来る限りの経費削減に努めたが、決算では740万円の特定資産の取崩しとなった。

次年度は更に学生数が減少することから、今年度以上の大幅な取崩し予算になる。

2. 会計処理・監査

法人の経理と養成施設(学校)の経理とが統合されており、会計帳簿、決算書類等、収支の状況を明らかにする書類等は、徐々にペーパーレス化されている。

なお、学校会計監査は、適正に実施され指摘事項はなかった。

3. 財務情報の公開

財務情報に関しては、毎年5月の理事会終了後にホームページにて公開している。

財務情報も職業実践専門課程認定校の基本情報として公開資料のなかにある。

《現状と課題》

令和4年度決算では、特定資産繰入が570万円ほどあったが、今年度は一転して取り崩しとなった。今後はさらに厳しい収支予算計画になるが、学納金を年間6万円値上げすることと、これまで以上に経費削減・節約に励み、優先順位で支出するよう徹底する。しかし、何よりも学生数の確保が重要であり、募集活動を優先課題として教職員全体で取り組んでいく。

○ 検証資料

公認会計士監査資料、予算編成会議資料、財務情報閲覧資料

X 社会貢献・地域貢献

【評価の観点】

- ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか
- ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

1. 社会貢献・地域貢献

(1) 研修会・講演会等の講師となって地域の口腔保健の向上に寄与している。

- ・函館市介護予防教室事業『転倒骨折・認知機能低下予防教室』講演・演習

・函館看護専門学校1年生対象の口腔ケアの講義・演習

また、学生の授業を兼ねて、地域包括支援センターときとうとの連携による町内会での『健口教室』を3町会にて実施し好評だった。

- (2) 学校祭において歯科医療関係団体と連携し、公衆衛生活動と口腔保健の意識向上に寄与しており、令和5年度も函館歯科医師会と北海道歯科衛生士会函館支部にご協力いただいた。

2. 職業教育・職業体験

V 学生支援 3. 中学校・高等学校との連携に記載

《現状と課題》

学校祭に関して、コロナ前は来場者の制限無しで開催していたが、現在は学生・学校の招待制に変更しており、令和5年度は216名の来場者だった。学生数が大きく減少しているため『食』を委託や購入販売にするなど工夫することで負担を調整している。

函館歯科医師会・北海道歯科衛生士会函館支部の協力によって、地域の歯科保健活動に貢献しているとともに、『歯科』をPRできる絶好の機会にもなっている。

○ 検証資料

野又学園施設貸出規程、講師派遣実績記録、令和5年度学校祭開催要領

XI 学校評価

1. 学校満足度評価

1年生 (26名)

(%)

カテゴリー	項目	とても満足	満足	不満	とても不満
教育課程	カリキュラムの内容	19.2	73.1	7.7	0
	講義（机上の授業）	15.4	80.8	3.8	0
	校内演習・実技	26.9	65.4	7.7	0
	臨地臨床実習（見学実習）	42.3	50.0	3.8	3.8
施設・設備	教室・教育設備・教材	50.0	50.0	0	0
	その他の施設・設備	34.6	57.7	7.7	0
支援体制	学習支援（学習計画等）	19.2	73.1	7.7	0
	就職支援	—	—	—	—
	奨学金案内・手続き・アルバイト	26.9	69.2	3.8	0
対応	専任教員	23.1	61.5	15.3	0
	事務職員	53.8	46.2	0	0
	健康管理（感染予防対策等）	38.5	61.5	0	0

2年生 (15名)

(%)

カテゴリ	項目	とても満足	満足	不満	とても不満
教育課程	カリキュラムの内容	6.6	80.0	6.6	6.6
	講義（机上の授業）	6.6	80.0	6.6	6.6
	校内演習・実技	20.0	66.7	6.6	6.6
	臨地臨床実習	6.6	66.7	20.0	6.6
施設・設備	教室・教育設備・教材	20.0	73.3	0	6.6
	その他の施設・設備	40.0	53.3	0	6.6
支援体制	学習支援（学習計画等）	13.3	80.0	0	6.6
	就職支援	—	—	—	—
	奨学金案内・手続き・アルバイト	13.3	73.3	0	13.3
対応	専任教員	13.3	73.3	6.6	6.6
	事務職員	33.3	53.3	6.6	6.6
	健康管理（感染予防対策等）	20.0	73.3	0	6.6

3年生 (31名)

(%)

カテゴリ	項目	とても満足	満足	不満	とても不満
教育課程	カリキュラムの内容	12.9	77.4	9.7	0
	講義（机上の授業）	16.1	80.6	3.3	0
	校内演習・実技	29.0	71.0	0	0
	臨地臨床実習（見学実習）	22.6	64.5	9.7	3.5
施設・設備	教室・教育設備・教材	38.7	61.3	0	0
	その他の施設・設備	32.3	58.1	6.4	3.2
支援体制	学習支援（学習計画等）	22.6	71.0	6.4	0
	就職支援	29.0	64.5	6.5	0
	奨学金案内・手続き・アルバイト	41.9	51.6	3.2	3.2
対応	専任教員	25.8	64.5	9.7	0
	事務職員	41.9	58.1	0	0
	健康管理（感染予防対策等）	29.0	64.5	6.5	0

《現状と課題》

満足群（とても満足、満足）は、1年94.4%、2年87.9%、3年94.1%であった。

1年次の不満足は、「実習時間を増やして欲しい」や、備品の老朽化、室温設定とお昼の給湯器が欲しい件だった。なお専任教員については「細々しく援助し過ぎで効率が悪い」というものだった。

2年次の不満足は特定の学生のようなのだが、臨地臨床実習の配当先についての不満が記載されていた。

3年次は、「時間割が詰め込み過ぎで精神的にきつかった」との意見や、備品の老朽化と給湯器、室温設定に関する不満足と、1年生と類似事項の不満が記載されていた。

2. 就職先医院調査（卒後3年：令和2～4年度卒業生の就職先医院対象）

就職先医院64件、回答32件（函館歯科医師会管内17、札幌5、道外10）、回答率50%

Q. 総合的に判断して、採用いただいた本校卒業生に満足していますか？ (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満	満足群	不満足群
函館（17）	10（58.8）	4（23.5）	2（11.8）	1（5.9）	14（82.4）	3（17.6）
札幌（5）	5（100）	0	0	0	5（100）	0
道外（10）	7（70.0）	2（20.0）	1（10.0）	0	9（90.0）	1（10.0）
計	22（68.7）	6（18.8）	3（9.3）	1（3.2）	28（87.5）	4（12.5）

Q. 採用いただいた卒業生に当てはまるもの (%)

	十分	概ね十分	計
1. 熱意・意欲	18	11	29（90.6）
2. 責任感	21	8	29（90.6）
3. 誠実	21	9	30（93.7）
4. 積極性	10	18	28（87.5）
5. コミュニケーション	16	14	30（93.7）
6. 協調性	16	15	31（96.8）
7. 問題発見力	8	15	23（71.8）
8. 基礎知識	8	18	26（81.2）
9. 基礎技術	6	20	26（81.2）
10. 新しい知識・能力の習得	13	12	25（78.1）

《現状と課題》

予想以上に高く評価していただいた。特に札幌では100%満足と回答があったが、実際に同じ歯科医院に本校の卒業生が複数人就職している様子が、今回の調査で分かった。採用した本校卒業生への満足度が、次年度に再び本校からの採用へと繋がっているのだと考え、各地で活躍する卒業生の頑張りに感謝している。

不満足にあがっていた4例は、「退職してしまった」が2例、「性格的な問題」が1例、「要領の悪さなど能力的なことと、本人の態度」が1例だった。

10項目の評価では、本校卒業生は真面目で人柄も良く馴染みやすい反面、知識とスキル、そして問題発見能力が不足していることが分かった。これまで学校内や臨床実習でも指示待ちが多い問題があることと、一方で専任教員の過干渉な面もあり、課題ではなかと考えている。

今後も教職員一同で、臨床現場の即戦力となる人材育成に尽力していく。